

臥遊 (がゆう) 遊

中国山水画—その世界

小川裕充 著



中央公論美術出版

臥遊 目次

序

凡例

口絵図版

臥遊への誘い——山水画の手法と原理

始めに

1	郭 熙	早春図	台北・国立故宮博物院
2	(伝)董 源	寒林重汀図	兵庫・黒川古文化研究所
3	米友仁	雲山図巻	クリーヴランド美術館
4	牧 谿	漁村夕照図(瀟湘八景図巻断簡)	東京・根津美術館
5	玉 潤	山市晴嵐図(瀟湘八景図巻断簡)	東京・出光美術館
6	(伝)李 成	喬松平遠図	三重・澄懷堂美術館
7	(伝)荆 浩	匡廬図	台北・国立故宮博物院
8		葉茂台遼墓出土山水図(山弈候約図)	遼寧省博物館
9	(伝)関 仝	秋山晚翠図	台北・国立故宮博物院
10		岷山晴雪図	台北・国立故宮博物院
11	范 寛	谿山行旅図	台北・国立故宮博物院
12	(伝)巨 然	蕭翼賺蘭亭図	台北・国立故宮博物院
13	燕文貴	江山楼觀図巻	大阪市立美術館
14		夏秋冬山水図(四季山水図残三幅)	山梨・久遠寺 京都・南禅寺金地院
15		遼慶陵東陵中室四方四季山水図壁画	内蒙古自治区赤峰市
16	(伝)趙令穰	秋塘図	奈良・大和文華館
17	(伝)王 詵	煙江疊嶂図巻	上海博物館
18	李公年	山水図	プリンストン大学美術館
19	武元直	赤壁図巻	台北・国立故宮博物院
20	(伝)趙伯駒	江山秋色図巻	北京・故宮博物院
21	(伝)許道寧	秋江漁艇図巻(漁舟唱晚図巻)	キャンザスシティ、 ネルソン—アトキンス美術館
22	(伝)張択端	清明上河図巻	北京・故宮博物院
23	(伝)喬仲常	後赤壁賦図巻	キャンザスシティ、ネルソン—アトキンス美術館
24	(伝)顧 愷	洛神賦図巻	北京・故宮博物院
25	(伝)展子虔	遊春図巻	北京・故宮博物院
26		唐懿德太子墓墓道儀仗図壁画	陝西省乾県
27		敦煌莫高窟第三二一窟南壁宝雨經变相壁画	甘肅省敦煌市
28		敦煌莫高窟第四四五窟北壁弥勒上下生經变相壁画	甘肅省敦煌市
29		騎象奏楽図(楓蘇芳染螺鈿槽琵琶捍撥)	奈良・正倉院
30		信貴山縁起絵巻(延喜加持巻)	奈良・朝護孫子寺
31	李 唐	山水図(対幅)	京都・大徳寺高桐院
32	李 氏	瀟湘臥遊図巻	東京国立博物館
33	王 洪	瀟湘八景図巻(瀟湘夜雨図)	プリンストン大学美術館
34	(伝)趙伯驥	萬松金闕図巻	北京・故宮博物院
35	馬 遠	西園雅集図巻(春遊賦詩図巻)	キャンザスシティ、 ネルソン—アトキンス美術館
36	夏 珪	風雨山水図团扇	ボストン美術館
37	李 嵩	西湖図巻	上海博物館
38	梁 楷	雪景山水図	東京国立博物館
39	馬 麟	芳春雨霽図冊頁	台北・国立故宮博物院
40	(伝)李 山	松杉行旅図	ワシントンD.C.、フリーア・ギャラリー
41	(伝)江 参	林巒積翠図巻	キャンザスシティ、ネルソン—アトキンス美術館
42	趙孟頫	水村図巻	北京・故宮博物院
43	高克恭	雲横秀嶺図	台北・国立故宮博物院
44	銭 選	山居図巻	北京・故宮博物院
45	曹知白	群峰雪霽図	台北・国立故宮博物院
46	朱德潤	林下鳴琴図	台北・国立故宮博物院
47	唐 棣	倣郭熙秋山行旅図	台北・国立故宮博物院
48	姚廷美	有余間図巻	クリーヴランド美術館
49	羅稚川	雪江図	東京国立博物館
50	李容瑾	漢苑図	台北・国立故宮博物院

51	黄公望	富春山居図巻	台北・国立故宮博物院
52	呉 鎮	漁父図	台北・国立故宮博物院
53	倪 瓚	容膝斎図	台北・国立故宮博物院
54	王 蒙	具区林屋図	台北・国立故宮博物院
55	冷 謙	白岳図	台北・国立故宮博物院
56		四睡図	東京国立博物館
57	(伝)王振鵬	唐僧取経図冊(張守信謀唐僧財図・明顕国降大羅真人図)	兵庫・個人コレクション
58	孫君沢	雪景山水図	東京国立博物館
59	盛 懋	山居納涼図	キャンザスシティー ネルソン—アトキンス美術館
60	方從義	雲山図巻	ニューヨーク・メトロポリタン美術館
61	趙 原	合谿草堂図	上海博物館
62	陳汝言	羅浮山樵図	クリーヴランド美術館
63	王 履	華山図冊(玉泉院図・仙掌図)	北京・故宮博物院・上海博物館
64	王 紱	秋林隱居図	東京国立博物館
65	戴 進	春冬山水図(二幅)	山口・菊屋家住宅保存会
66	李在・馬軾・夏芷	歸去来兮図巻(問征夫以前路図・雲無心以出岫図)	遼寧省博物館
67	安 堅	夢遊桃源図巻	奈良・天理大学附属天理図書館
68	雪 舟	天橋立図	京都国立博物館
69	石 銳	探花図巻	東京・橋本太乙コレクション
70	呉 偉	漁楽図	北京・故宮博物院
71	呂文英	風雨山水図	クリーヴランド美術館
72	鍾 礼	観瀑図	ニューヨーク・メトロポリタン美術館
73	王 諤	江閣遠眺図	北京・故宮博物院
74	朱 端	山水図	ストックホルム・東アジア美術館
75	王世昌	松陰書屋図	ワシントンD.C.、フリーア・ギャラリー
76	張 路	道院馴鶴図	東京・橋本太乙コレクション
77	蔣 嵩	四季山水図巻	ベルリン国立博物館東アジア美術館
78	史 忠	晴雪図巻	ボストン美術館
79	沈 周	廬山高図	台北・国立故宮博物院
80	文徵明	雨餘春樹図	台北・国立故宮博物院
81	周 臣	北溟図巻	キャンザスシティー、ネルソン—アトキンス美術館
82	唐 寅	山路松声図	台北・国立故宮博物院
83	仇 英	仙山樓閣図	台北・国立故宮博物院
84	謝時臣	華山仙掌図	東京・橋本太乙コレクション
85	陸 治	玉田図巻	キャンザスシティー、ネルソン—アトキンス美術館
86	文 嘉	琵琶行図	大阪市立美術館
87	文伯仁	四萬山水図(四幅)	東京国立博物館
88	銭 穀	虎邱図	天津博物館
89	丁雲鵬	玄扈出雲天都暁日図	クリーヴランド美術館
90	李士達	竹裡泉声図	東京国立博物館
91	董其昌	青弁図	クリーヴランド美術館
92	米萬鐘	寒林訪客図	東京・橋本太乙コレクション
93	呉 彬	歳華紀勝図冊(登高図)	台北・国立故宮博物院
94	張瑞図	山水図	ニューヨーク・メトロポリタン美術館
95	張 宏	棲霞山図	台北・国立故宮博物院
96	趙 左	竹院逢僧図	大阪市立美術館
97	王建章	雲嶺水声図	大阪市立美術館
98	藍 瑛	蔑目喬松図	東京・橋本太乙コレクション
99	黄道周	松石図巻	大阪市立美術館
100	陳洪綬	宣文君授経図	クリーヴランド美術館
101	崔子忠	杏園送客図	ウィスコンシン、ニコラス・ケイヒル・コレクション
102	侯屋宗達	松島図屏風	ワシントンD.C.、フリーア・ギャラリー
103	蕭雲從	山水清音図巻	クリーヴランド美術館
104	王時敏	傲黄公望山水図	台北・国立故宮博物院
105	王 鑑	傲黄公望煙浮遠岫図	台北・国立故宮博物院
106	王 翬	溪山紅樹図	台北・国立故宮博物院
107	王原祁	華山秋色図	台北・国立故宮博物院
108	呉 歷	白傅湓江図巻	上海博物館
109	惲寿平	花隲夕陽図巻	京都国立博物館

110	ヤン・フェルメール	デルフトの眺望	デン・ハーグ、マウリツホイス美術館
111	八大山人	安晚帖(荊巫図)	京都・泉屋博古館
112	石 涛	黄山八勝図冊(鳴絃泉・虎頭岩図)	京都・泉屋博古館
113	石 谿	報恩寺図	京都・泉屋博古館
114	漸 江	江山無尽図巻	京都・泉屋博古館
115	査士標	桃源図巻	キャンザスシティ、ネルソン・アトキンス美術館
116	戴本孝	文殊院図	バーミンガム、思華コレクション
117	梅 清	九龍潭図	クリーヴランド美術館
118	龔 賢	千巖萬壑図	チューリッヒ・リートベルク美術館
119	法若真	山水図	ストックホルム・東アジア美術館
120	黄 鼎	群峰雪霽図	台北・国立故宫博物院
121	袁江・王雲	樓閣山水図屏風	京都国立博物館
122	郎世寧	百駿図巻	台北・国立故宫博物院
123	銭維城	棲霞全図	台北・国立故宫博物院
124		月令図(十二月)	台北・国立故宫博物院
125	黄 慎	山水墨妙図冊(第一図・第十二図)	京都・泉屋博古館
126	華 岳	秋声賦意図	大阪市立美術館
127	金 農	墨梅図(四幅)	ニュージャージー・翁萬戈コレクション
128	張 峯	仿古山水図冊(訪友図・秋圃図)	東京・松岡美術館
129	銭 杜	燕園十六景図冊(過雲橋図・夢青蓮花盞図)	京都・個人コレクション
130	鄭 敦	金剛全図	ソウル・三星美術館Leeum
131	浦上玉堂	東雲篩雪図	神奈川・川端康成記念会
132	蘇仁山	賈島詩意山水図	京都国立博物館
133	任 熊	十萬図冊(萬壑争流図・萬林秋色図)	北京・故宫博物院
134	戴 熙	春景山水図(八幅)	アリゾナ、ロイ & マリリン・バップ・コレクション
135	ジャクソン・ポロック	One: Number 31, 1950	ニューヨーク・近代美術館

終 わ り に

後 記

資料編	I	作品別地平線・基本視点一覧
	II	作品別構図一覧
	III	作品別款識・題跋・鑑蔵印記一覧
	IV	本文使用挿図一覧
	V	本文引用文献一覧
	VI	参考文献一覧
	VII	撮影者および画像提供者・著作権者

索引編	I	人名索引
	II	作品名索引
	III	書名索引
	IV	事項索引

この三十数年ほどにわたって、世界中の公私のコレクションに所蔵される中国絵画や日本絵画などを調査し研究してきた、ある節目をなすが、本書である。これまで研究を行ってきた東アジア絵画のなかでも、とりわけ心を寄せてきた作品群のうち、最も膨大なものが中国山水画であり、自身も総数を知らない調査作品のなから、特に強く印象に残る中国山水画を中心とする百三十点あまりの作品を想起し、調査ノートをファイルから取り出して、それを見た場所と年月日にも思いをはせつつ、あしかけ十三年にわたって行った連載『中国山水画百選』をまとめたものであるからである。

百三十点あまりの作品のすべてを実際に見ることは、本書の読者諸氏の相当数を占めると思われる非専門家の方々にとっては勿論、専門家の方々にとつても、極めて困難なことであろう。それだけではない。三十数年ほどにわたって世界中を旅してきた自身にとつても、これまでも幾度も見てきたし、これから幾度も見るであろう多くの作品がある一方で、少ないながら、これまでただ一度だけ見て、これから二度と再び見ることもない作品もある。

臥遊とは、とすれば、本書をひもとく読者諸氏にとつてのものだけではない。自身にとつてのものでもある。中国南北朝時代、南朝宋の宗炳（三七五―四四三）が提唱したその概念は、本来、画家でもあった宗炳が、過去に訪れたことのある場所を自ら画いてそれを眺め、坐したり臥したりしたまま、居ながらにして再遊、三遊し訪ねることを云い、後にその地を訪れたことのない観者にも拡張される。すなわち、拡張された概念のもとで、画家にとつて、観者にとつて、臥遊の対象となるのは、第一に、山水画の表現それ自体、第二に、表現する場所、第三に、制作され所蔵されてきた経歴である。臥遊とは、換言すれば、第一に、山水画が時空間としてどのように構築されているのかを造形的に把握する、山水画の表現のなす絵画空間それ自体へのより基本的な造形性へのそれ、第二に、理想あるいは現実の時空間として何を目指して表現されているのか、表現されたものと理解されてきたのかを探究する、山水画の表現する理想あるいは現実の場所へのより高度な表現性へのそれ、そして、第三に、どのようなところで制作され所蔵されて、どのようなものとして位置づけられてきたのかを検証する、

山水画の制作され贈答され購入され所蔵されてきた経歴へのより広範な社会性へのその三重構造をなすものである。中国山水画の歴史においてその概念が、時代による消長はあれ、一貫して行われてきたのは、宗炳の意図が山水画の本質と不即不離のものであったからに相異なる。

臥遊は、当然のことながら、日本語で著された本書を読める人々にのみ可能なものではない。読めない大多数の人々にとつても、本質的には可能なものである。なぜなら、伝統中国山水画は、筆者が参画してきた中国絵画世界調査により知られる中国絵画無慮二万点、中国本土に存在する中国書画二万点、台北故宫博物院に所蔵される中国書画数千点、総計三万数千点のうち、絵画の過半を占める膨大な作品群をなしており、ヨーロッパ絵画の最も重要な分野であるキリスト教絵画に優るとも劣らない、人類普遍の価値を有する造形作品群と称することができからであり、キリスト教信者ではなくとも、キリスト教絵画の卓越した質を理解できるのであれば、日本語や中国語を解さないものでも、中国山水画の卓越した質を理解できるはずであるからである。本書が、中国山水画のみならず、日本・韓国のそれ、さらにはヨーロッパ・アメリカの風景画や抽象表現主義絵画をも含むのは、決して表題と矛盾するものではない。表題の意味するところをより深く認識し表現したいがために、筆者自身意図的に選んだものであり、中国山水画と同様に、ヨーロッパ・アメリカ絵画も、見ることを徹底することによって、人類の誰もが理解できる本質を有すると考えるからに他ならない。とはいえ、現時点での最高精細度を誇る本書の図版を、丁寧に鑑賞するのみでも、また、日本語や中国語を解さないものでも、中国山水画の卓越した質を理解できるはずであるとは、言つてもなく、極論である。本書が唯一筆者の自由に操ることのできる日本語で著されたことを第一歩として、中国山水画の世界への臥遊が世界中の人類に可能になってゆく端緒となれば幸いである。

二〇〇八年五月十七日

資料編Ⅰ

作品別地平線・基本視点一覧

凡 例

- 1

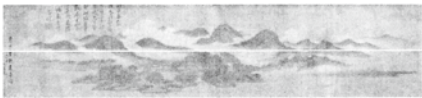
本一覽では、作品別に地平線もしくは水平線を実線で示し、用語としては、原則として、地平線のみを用いる。
- 2

基本視点の移動のない前軸では、地平線の中央にやや大きめの点を打って、基本視点一点を明示する。同じく移動のない後軸では、画面が比較的狭小であるため、特にその中央に基本視点一点を定めることはしない。
- 3

画卷では、基本視点が巻頭から巻尾へと移動し、その軌跡が地平線をなすため、基本視点一点を定めることはできない。従って、それを示すこともしない。また、基本視点の前後の変化を図示することもできない。その高低の変化のみを表示し、基本視点の高さが不連続に変化するときは、点線でその部分を繋ぐ。点線が画面上方に出る場合は、基本視点が画面上外にあることを意味する。
- 4

各作品名の下に記す分数は、地平線が画面の何れの高さにあるのかを示す。1/2は、画面二分の一の高さにあることを意味する。2/3→1/2は、画面において、基本視点が巻頭側から巻尾側へ、画面二分の一の高さから三分の二のそれへと移行することを示す。また、画面上端とある場合は、基本視点、及び地平線が画面の上端に、画面上外とある場合は、画面の上外に設定されていることを意味する。
- 5

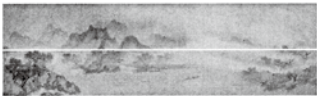
地平線・基本視点については、透視遠近法を定式化する本文「(二)山水画の手法と原理」とは？—その定式化—(1)透視遠近法—山水画の手法と原理(1)」を参照されたい。なお、(伝)董源「寒林重汀图」(図版2)は、本書で図版として示す全作品のうちで、透視遠近法によらない唯一の例外であり、その空間構造については、簡単な数字や文字では表示し得ないので、上記本文を併せて参照されたい。



3 米友仁 雲山図巻
1/2



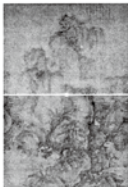
5 玉潤 山市晴嵐図 (瀟湘八景図巻断簡)
1/2



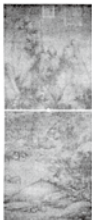
4 牧谿 漁村夕照図 (瀟湘八景図巻断簡)
1/2



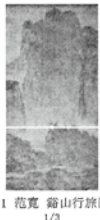
2 (伝)董源 寒林重汀图
1/2



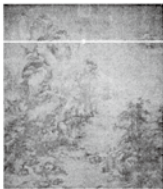
1 郭熙 早春图
1/2



12 (伝)巨然 蕭翼賺蘭亭图
1/2



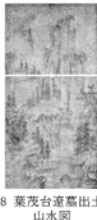
11 范宽 谿山行旅图
1/3



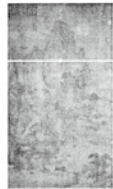
10 岷山晴雪图
4/5



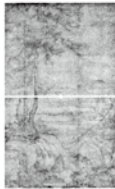
9 (伝)関全 秋山晓翠图
4/5



8 葉茂台遼墓出土山水图 (山谿寒山转苍苍图)
1/2以上



7 (伝)劉涪 匡廬图
2/3



6 (伝)李成 喬松平遠图
1/2

資料編Ⅱ

作品別構図一覧

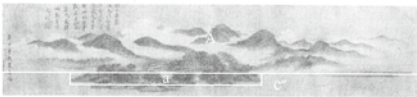
凡 例

- 1

本一覽では、作品別に、その構図が基本構図法の何れによるのか、あるいは何れの組合せからなるのかを図示する。
- 2

基本構図法とは、最も基本的な「A:一水兩岸」「B:兩岸一岸」「C:一水一岸」三構図法とその派生型の「a:一水兩岸・橋」「c:一水環島」「c':前岸後水」「c':前水後岸」四構図法、及び「A:一水兩岸」の古様な型である「X:三山形式」一構図法、計八構図法を指す。なお、mwとあるのは水の表現を欠くものである。透視の構図法ではない。
- 3

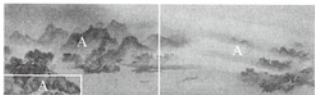
基本構図法の定式化については、本論「(二)山水画の手法と原理」とは？—その定式化—(2)基本構図法—山水画の手法と原理(II)」を参照されたい。



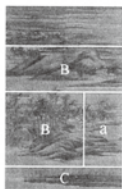
3 米友仁 雲山図巻



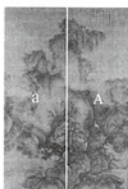
5 玉潤 山市晴嵐図 (瀟湘八景図巻断簡)



4 牧谿 漁村夕照図 (瀟湘八景図巻断簡)



2 (伝)董源 寒林重汀图



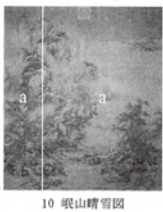
1 郭熙 早春图



12 (伝)巨然 蕭翼賺蘭亭图



11 范宽 谿山行旅图



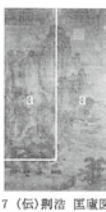
10 岷山晴雪图



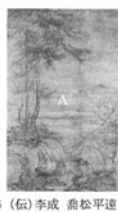
9 (伝)関全 秋山晓翠图



8 葉茂台遼墓出土山水图 (山谿寒山转苍苍图)



7 (伝)劉涪 匡廬图



6 (伝)李成 喬松平遠图

南北朝時代から清代までの現存する中国山水画のうち、2000年になんなんと
するその輝かしい歴史を画する135点を精選。大判の高精細カラー図版に、
著者30余年の調査、研究の成果を盛り込んだ1点1点の作品に対する詳しい解
説を附す。山水画の手法と原理を書き下ろし、壮大な世界へと誘う決定版画集。

平成二十年十一月刊行



◇臥遊(がゆう)

山水の画幅を臥しながら見て、その地に
遊んだような気持で楽しむこと。

(岩波書店『広辞苑』より)

小川裕充(おがわ ひろみつ)著

造本・体裁 B4判 上製函入

カラー図版136頁 本文310頁

定価45,150円(本体43,000円+税)

ISBN978-4-8055-0454-3 C3071

著者紹介

山水画における構成の伝承など、古代中世東アジア絵画史を研究しつつ、中国絵画の写真資料収集などを手掛け、ヨーロッパ・アメリカ・カナダ、アジア、日本に所在する中国絵画について現地調査を行う。1982年に着任した東北大学の東洋・日本美術史研究室では『中国絵画総合図録』、88年に着任した東京大学の東アジア美術研究室では『同 続編』(東京大学出版会)の編集を行う。現在、同大学の東洋文化研究所・東アジア研究部門に所属し、学部ならびに大学院において『中国絵画史研究』および『東洋美術史演習』の講義を受け持つ。また、東京大学東洋文化研究所・東洋学情報センター長を務める。

履歴

1948年、大阪市生まれ。73年、東京大学教養学部教養学科卒業、同大学院人文科学研究科博士課程中退(美術史学専攻)。79年、東京大学助手。東北大学・東京大学助教授を経て、92年より、東京大学東洋文化研究所教授。その間、ハイデルベルク大学美術史研究所客員教授、北京日本学研究中心客員教授を歴任。美術史学会代表委員(2000-202年度)、東方学会理事。

著書

『中国絵画総合図録』、『同 続編』(共著・東京大学出版会)
『故宮博物院(一)〜(五)』(監修・執筆・日本放送出版協会)
『五代・北宋・遼・西夏 世界美術大全集 東洋編5』(共編著・小学館)
『中国の花鳥画と日本』(共編著・学習研究社)
『舊詩帖』(私家版・中央公論美術出版)
『慶雲』(小川勝正全歌集(砂子屋書房))

圧倒的な迫力の三五図の大判高精細カラー図版

新知見を盛り込んだ充実の論考

作品理解の助けとなる挿図二〇〇〇版と詳細な解説。
そして豊富な資料類

本書をお勧めする方々

美学・美術史、東洋思想史などの研究者・研究室 美術館・博物館
館学芸員、大学・公共図書館 文化財保存・絵画修復関係者、画
廊、古美術商、日本画・水墨画家、表装・表具店、画集・美術豪
華本愛読者

お取り扱いは

中央公論美術出版

<http://www.chukobi.co.jp>

〒104-0031 東京都中央区京橋 2-8-7

電話 03(3561)5993 FAX 03(3561)5834